

# はえなわ漁業によるトラフグの漁獲実態

福島県水産資源研究所 資源増殖部

部門名 水産業－資源管理－延縄

担当者 岩崎高資

## I 新技術の解説

### 1 要旨

本県で漁獲量が急増しているトラフグについて、漁獲実態を明らかにし、資源管理方策の検討のための基礎資料とするため、漁獲物調査や操業日誌情報の解析を行った。はえなわ漁獲物の全長組成は、全長 43cm にモードを持つ単峰型を示した。また、遠浅の県北海域ほど漁場面積が広く、漁場水温と CPUE の変化には正の相関があり、12 月以降に CPUE の低下が見られた。

- (1) 本県におけるトラフグ漁獲量及び金額は、2019 年以降増加し、2022 年は漁獲量 36.1 トン、漁獲金額 124 百万円となった(図 1)。漁業種類別では、県北部の相双地区のはえなわ漁業による漁獲が主であった。2022 年 12 月末現在のトラフグはえなわ着業隻数は 24 隻、操業延べ隻数は 768 隻と前漁期を上回った(表 1)。
- (2) 2022 年 9 月～12 月に相双地区トラフグはえなわ漁業で漁獲されたトラフグの全長組成は、全長 43cm にモードを持つ単峰型を示した(図 2)。他県海域の成長から、漁獲物の主体は 2～3 歳魚と考えられた。
- (3) トラフグはえなわの試験操業日誌から、2021 年漁期(2021 年 9 月～2022 年 1 月)における CPUE(単位努力量あたり漁獲量、kg/隻・日)を整理し、CPUE マップ図を作成した(図 3)。9～11 月に CPUE が高い海域が県北の水深 100m 以浅に見られ、12 月以降低下した。また、遠浅の県北海域ほど漁場面積が広いことが明らかとなった。
- (4) 2021 年漁期の漁場水深を整理し、調査船いわき丸が海洋観測で測定した鉛直水温(U1～U5 の平均値)から漁場水温を求めた。漁場水温と CPUE の変化には正の相関があり、水温が低下する 12 月以降に CPUE の顕著な低下が見られた(図 4)。

### 2 期待される効果

- (1) 本県沿岸のトラフグ分布生態解明のための基礎的知見となる。また、持続的なトラフグはえなわ漁業操業を支援することが出来る。

### 3 適用範囲

- (1) 漁業関係者、行政担当者、研究者

### 4 普及上の留意点

- (1) なし

具体的データ等

表1 相双地区のトラフグはえなわ操業状況

漁期年	操業期間	操業日数	延べ隻数	地区の着業隻数 ( )内は延べ隻数				
				新地	相馬原釜	磯部	鹿島	請戸
2019年	9/9~12/5	27日	54隻		3 (52)		1 (2)	
2020年	9/28~12/24	29日	115隻		6 (71)		1 (23)	1 (21)
2021年	9/1~翌1/20	47日	510隻	2 (52)	13 (380)		1 (29)	3 (49)
2022年※	9/1~12/21	41日	768隻	2 (74)	17 (539)			5 (155)

※2022年漁期は2022年12月末現在の操業情報を整理

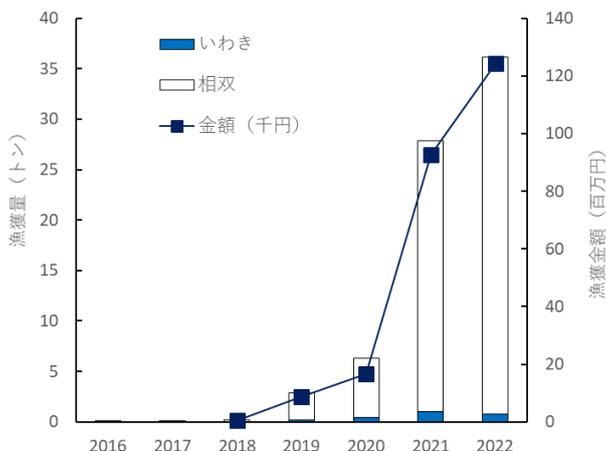


図1 トラフグの地区別漁獲量及び漁獲金額

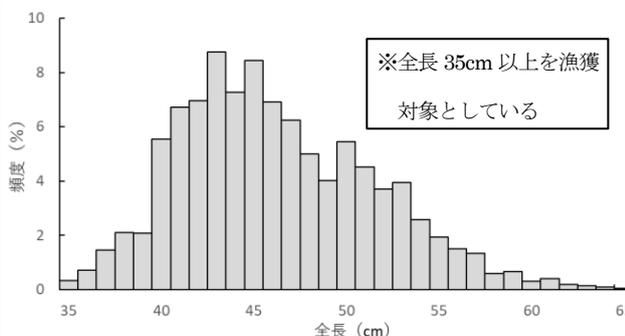


図2 トラフグはえなわ漁獲物全長組成

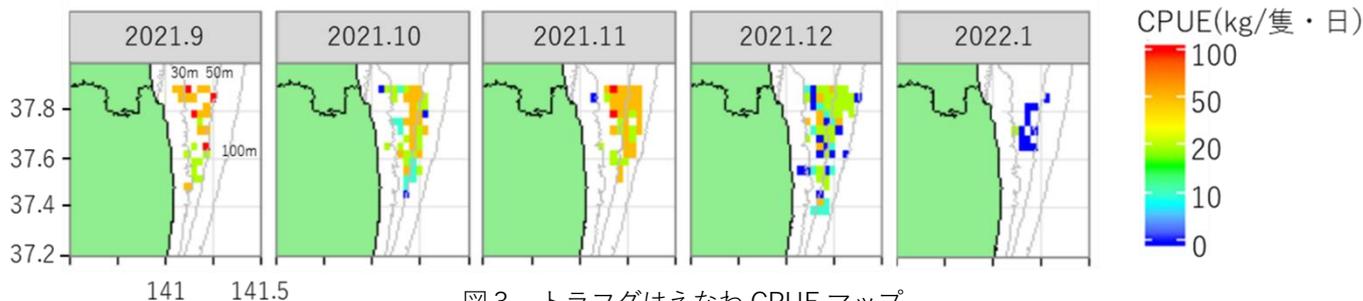


図3 トラフグはえなわCPUE マップ

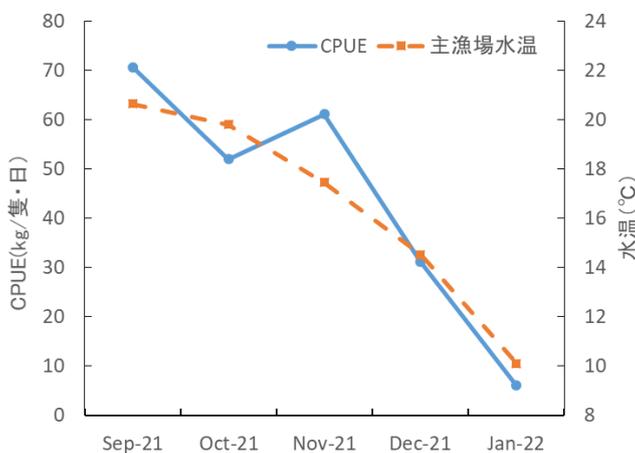


図4 CPUE と漁場水温の月変化

III その他

1 執筆者

岩崎高資

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和 3~7 年度

(2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

3 主な参考文献・資料

(1) 水産研究・教育機構 令和 3 年度トラフグ伊勢・三河湾系群の資源評価